



若い群像

洋品店の店頭には、はやくもこ
 としの秋のモードが展示されてい
 ますが、市内幸町にある藤井編物
 学校でも、編機のにぎやかな音の
 中で、秋のモード、そして冬に向
 かってのニットのデザインと、生
 徒たちは創作に忙しい。

その中で、てきばきとスケール
 調整などを教える藤元登代子さん
 は、この学校の先生です。

藤元さんは、この道に入ってから
 ももう七年になるといふ。

入りたての頃は、編機も今のよ
 うに精巧なものではなく、模様な
 どのゲージ計算に追われたが、今
 は簡単にスケールを使って好きな
 デザインを編むこともでき、急速
 な進歩とともに、女性にとっては
 身近な技術修得の場になったとい
 う。

「好きで入った道ですから辛い
 とは思いません。一步一步完成され
 ることが楽しみなんです」

「流行と個性にあつたおしやれ
 自分のデザイン、自分の手で作っ
 た物を身につけることは楽しいこ
 とですね。留萌の女性も、もつと
 自分の個性を再発見し、自分にあ
 つた手作りを楽しんでみては」と
 もいふ。

幾つも年令の違わぬ生徒さんを
 相手に、型づくり、デザインなど
 の指導に、よきお姉さんぶりを発
 揮する藤元さんです。

広報

あとい

'73 9 月号
 第186号